

尖ったものづくりを目指してよひぢ

明 石家さんま、ダウンタウンで人気の吉本興業、まずお
かだ、笑福亭鶴瓶の松竹芸能。こういった事務所の芸人、
タレントさんの東京進出で、いまや関西弁は、全国区になっ
た
感があります。

そやけど、先月紹介した「ぼやき漫才」の人生幸朗、生恵幸子
のコンビは、東京の若い人は知らないようでしたなあ。

「お二人の名前にフリガナつけないと、読めません」と言われて
しまいました。

もつとも、大阪の若い人も、もう知らないかもしれませんねえ。
ぼやき漫才は、昭和は遠くなりにけりですかな。

コロナもようよう収まり、また東京からも講演のご依頼がある
ようになりました。

大阪の僕にお呼びがかかるようになったのも、先ほどの東京の
市場を切り開いた大阪のタレントや芸人さんのおかげかもしれま
せんねえ。

いまのように、ふつうに大阪弁でまくしたてても、東京で通用
する時代になったのは、ありがたいことです。

講演を聴いていただいた方の中には「大阪弁で、叱咤激励され
ると元気が出ますな」という感想もありました。

なんか話の内容よりも、大阪弁というパッケージに興味を持つ

た方も、いらつしゃったようです。

どうやら僕、ベタな関西人の代表のように、見られてるようです。

**「友達は大事にせえよ」という
父親のこトばを大切にしています**

まあそれはそれとして、東京に行っているんな講演はもとより、
その前後でいろんな方とお会いします。単なる商売の話だけやあ
りません。

人工衛星「まいど1号」を打ち上げたとき、地元、東大阪のみ
なさんにはお世話になりましたが、東京の宇宙航空研究開発機構
(JAXA)や大学の先生方にも、大変ご助力をいただきました。
そんな言わば戦友みたいな友人知人に会う機会があれば、でき
るだけご挨拶します。

これらの方々には、中小企業の工場主とは違うモノの見方を教
えてもらいました。

お会いして、仕事の話ばかりでなく、たわいのない話をするのも、
今後のヒントになります。

毎日なるべくたくさんの方とお会いするのは、父親からよう聞
かされた「友達は大事にせえよ」というこトばを大切にしている
からです。



●(株)アオキ取締役会長

青木 豊彦

(あおき・とよひこ)



大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年国立和歌山大学客員教授に就任。2016年大阪市立大学学長特別顧問に就任(現在は、大阪公立大学客員教授)。2020年国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事。

父は友達を戦争で多く亡くしているので、そんな思いを強くもっていたようです。

前にも紹介しましたが、父親は「自分の工場で作った部品を、いつか空に飛ばしたい」という夢をもっていました。

三井造船で働き、横須賀ドックにも派遣されたような熟練工だったそうです。

そこから引き抜かれて二六歳のとき、工場長になり、一九六二年に青木鉄工所を創業したんです。

僕はその志を継いで、(株)アオキをボーイング社の認定工場にしたり、「まいど1号」を打ち上げたり、自分で言うのもなんですが、親父の夢をかなえた孝行息子やと思います(笑い)。

日本のモノづくりが問われているのかもしれない

そんなこんなで、ウチは、初代の父親、二代目の僕、そして三代目の息子と事業承継はなんとかできました。

そやけどいま、年商一億から一〇億の企業の約七割は、後継者がいないそうです。

黒字なのに後継ぎがない、という深刻な事態も起こっています。事業ばかりでなく、これらの企業がもつ技術の継承はどうなるのでしょうか。

いま日本のモノづくりが問われているのかもしれない。

原子力もそやないですか？

福島事故以来、依然、多くの発電所が止まっていますが、発電所を長い間止めてたら、技術の継承はうまくいくのでしょうか。



●青木さんのお父さんが働いたかもしれない横須賀港の石造りドライドック。第1号ドックはわが国最古のドックで、明治日本の海運や海軍の発展に大きく寄与した

発電所の所員の士気は大丈夫でしょうか。

それから、聞いたことですけど、海外では福島事故を踏まえて、事故のないような小さな原子炉など、いろいろな研究が進んでいるそうです

これらの開発は、いままでの規制に縛られてたらできないのやないですか。

例えば、カナダでは、日本のメーカーも研究開発に参画している原子炉を、ヨーロッパのポーランドなどに売ろうとしているそうですが、日本にもつてくるには、さまざまな障害があるようです。

これ、僕らが無人飛行機を日本で実験しようとしても規制が多く、一時は海外で開発しようと思ってたのと同じようです。

どうも日本の規制は、手足を縛ってよその国と競走やれ言っているようでなりません。いままでのさまざまな規制を見直して、他の企業と横並びやなしに、世界に対抗する尖ったモノづくりを目指しましょうや。